

ブラジルの金利引き上げについて

2014年2月27日

ブラジル中央銀行は2月26日（現地時間）の金融政策委員会において全員一致で政策金利の0.25%の引き上げを決めました。これで同国の政策金利（翌日物国債レポ取引金利：Selic）は10.75%で昨年4月以降8会合連続の引き上げとなりました。今回は景気への配慮もあって利上げ幅も0.25%に抑えられたとみられます。多くの市場関係者が事前に予想していたことから金融、為替市場への影響は限定的でした。

《政策金利引き上げの背景》

実施の背景には引き続き①インフレ抑制、②自国通貨の安定が挙げられます。

- ①ブラジルでは通貨安による輸入物価の高止まりや財政支出の拡張によりインフレ率が高い水準にとどまっています。
- ②ブラジルレアルは今年に入り暫く落ち着いた動きとなりましたが、米国量的金融緩和の縮小（テーパリング）ペースが今後も変わらないであろうとの見方が強まったことに加え、アルゼンチン・ペソの急落もあり1月下旬から2月初旬にかけて大幅に下落しました。米国金融政策の転換を受けて資本の流出が懸念されていることもあり、金利を高くすることで流出を抑制し通貨の安定を企図しています。

《今後の見通し》

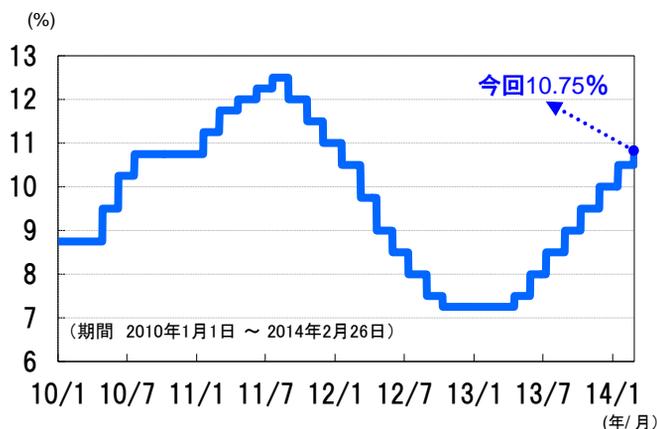
景気については回復にやや時間を要するとみています。内需は全般に低調ですが、外需については幾分期待できると考えています。同国と経済関係の強い中国では景気は減速したものの依然7%台の成長が可能であるとみられることや足元で景気指標の悪化がみられた米国でも寒波の影響で鈍化は一時的とみられることなど、外需はブラジル経済の下支えとなることが期待されます。

またインフレについては昨年6月の6.7%台から大幅に低下し同国および中央銀行の目標（4.5%±2%）内に収束しており、今後も低下傾向が続くと予想されます。

為替レートについては米国のテーパリングは今後も継続されると考えられますが、これまでの下落による水準訂正、予想される政府・中央銀行による市場介入などから、下値不安は徐々に薄らぐと思われます。経常収支の改善が遅れていますが、一方で基礎的財政収支が2013年の目標黒字額を達成するなど経済ファンダメンタルズの改善もみられます。

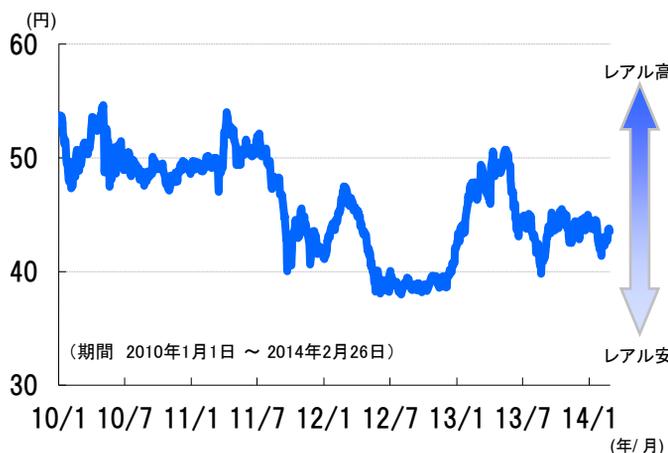
ただ状況によっては安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ブラジルレアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。